

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 中村 勝徳 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

1 前 文

今年の共通テストも昨年度までの形式・難易度を踏襲した出題となり、大きな変更点はなかった。今年度も、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針がしっかりと反映されたものであったと言える。

2024年度の共通テストにおけるリスニング受験者数は前年度の464,931人からは若干減少し、本試験と追・再試験を合わせ448,694人だった。教科選択率は昨年度と変わらず98.1%となっており、英語の成績が文系理系を問わず全ての受験者の大学合否に大きく関与していることがうかがえる。本試験の平均点は、一昨年度が59.45点、昨年度は62.35点、今年度の平均点は67.24点であり、前年度よりも4.89点上昇した。内容に大きな変更が見られなかったこと、また、受験者がしっかりと事前に準備ができるようになったことが要因であると考えられるが、共通テスト実施4年目で、それぞれの問題が成熟してきたことも大きいと考えられる。結果、全体の難易度についてはやや易化したと言える。読み上げられた英語の総語数は約1,570語（昨年度は約1,541語）でほぼ変わらず、設問と選択肢の総語数は約700語であった。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A：短文内容一致問題	2
		3	B：短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A：モノログ図表並べ替え・図表完成問題	
		1	B：複数のモノログ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	
6	14	2	A：対話文（2者）選択問題	
		2	B：対話文（4者）選択問題	
合計	100	37		

出題形式、配点、読み上げ回数については、今年も変化はなかった。内容面で、イラストやグラフ、表が数多く使用されており、単純な英語の聞き取りに加えて場面や目的に応じた思考力・判断力が問われることや、話者についてはアメリカ人話者やイギリス人話者だけではなく、日本人と思われる非ネイティブ話者など多様な話者が含まれていた部分も昨年度までと同様であった。また、課題となっていた各問の解答時間については、実際の時間に昨年度からの大きな変化は認められなかったが、設問の内容や難易度のためにかなり余裕をもって取り組める構成であったと言える。

第1問 短い発話を聞いて、内容に関する選択肢を選ぶ問い。Aは短い発話（いずれも2文）を聞

き取り、その内容と最も合致する選択肢を選ぶ問題である。状況を要約したり、発話から推測できることを判断する力が求められている。Bは短い発話を聞いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。発話の長さにより、問いごとの難易度に若干の違いがあるが、総じて標準的な難易度であったと言える。

問1 「ノートはあるが鉛筆を忘れた」という発言から the speaker の状況を理解する問題。

問2 「あなたが昨日昼食を買ってくれたので、今夜は私がチケットを買いましょう」という発言から the speaker と Ken の状況を理解する問題。2者の状況を理解する必要があるという点において、他の問題よりも難易度は高い。

問3 「古いシティホールに一度だけ行ったことがある」という後半の発言を踏まえつつ、the speaker の発言全体の趣旨を理解する問題。

問4 「このパスタでは五人に十分ではないので、サンドイッチとサラダも作る」という発言から the speaker の行動を理解する問題。選択肢の時制が過去と未来に分かれていることで、状況の理解と行動の予測が求められる。

問5 「葉が落ちている」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。the leaves とそれに続く現在進行形が聞き取れれば平易。

問6 「弟がビデオゲームをしている間、うちの犬はいつも彼のそばで眠る」という場面を描写したイラストを選ぶ問題。

問7 「白い扇風機が一番細いが黒いほうが一番安い」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。

第2問 短い対話を聞き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で場面の情報が示されているのは昨年までと同様であり、短い時間の中で場面に応じた聞き取りが必要となる。与えられた場面の説明とイラストはいずれの問題でも非常に分かりやすく、受験者も問題の趣旨をしっかりと踏まえて解答できたと思われる。

問8 迷子になった猫の特徴と合致するイラストを選ぶ問題。猫の色と尾の長さの2点を順番に聞き取る。

問9 対話の内容から子ども時代の女性を選ぶ問題。第一文の「本を持っている少女」という情報に気を取られすぎると、次の I'm in the front を聞き落としてしまうかもしれない。

問10 対話の内容から適切な封筒を選ぶ問題。前置詞 under の理解も求められる。他の前置詞（例えば next や above 等）も含めた対話にすると問題の難易度は上がると考えられる。

問11 電話の内容から予約した席の位置を選ぶ問題。予約の際によく使われる表現や単語が使われており、難易度としては標準的である。

第3問 短い対話を聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。本問より音声は1回しか流れないが、一方で問いを事前に読むことができるため、対話から聞き取るべき内容がある程度予測することができる。

問12 対話の内容から the man が今回とるであろう行動を答える問題。場面設定から最初の I'll have～は注文のための発言と理解できる。

問13 対話の内容から the man がとる行動を答える問題。男性の最後の発言にある instead から、最初に考えていたピアノではなく電子キーボードを買うことが分かる。Instead については昨年度も同様の出題があった。

問14 対話の内容から the woman がとる行動を答える問題。Can you take me now? から店に行くのは today だと分かる。

問 15 対話の内容から the woman が今していることを答える問題。冒頭の The moving company is coming soon. から引っ越しのための荷造りであることが分かる。

問 16 友人同士の明日の予定についての対話。男性の I'm afraid of horses. から乗馬を避けていることが分かる。

問 17 理科の宿題についての対話。the boy は宿題の内容を勘違いしていて、テキストを読むのではなく a report を書いたという内容。

第 4 問 A は読まれる説明を聞き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は一昨年度出題されたイラストを時系列に並べる問題が再び扱われた。B では、四人の話者の説明を聞き、示されたスケジュールに合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聞き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも好ましい影響を与えるものであり、今後も継続が望まれる。複合的な作業が求められ、問題の難易度は高いが、今年の問題では作業の複雑さではなく、発言内容とそれをパラフレーズした選択肢を一致させる部分での難しさであり、このような作問はむしろ望ましいものであると考える。

問 18～21 週末に行ったことについての話を聞き、時系列に沿ってイラストを並べる問題。To start off, Then, After lunch, Finally と時を示すフレーズに続いて話される内容を聞き取ればよい。

問 22～25 夏季講座のスケジュールについての説明を聞き、空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。複数の曜日がまとめて説明されていたり、French or Spanish が language, ancient Egypt and the Roman Empire が World History と選択肢ではパラフレーズされていることで難易度は高いと言えるが、使われている単語はいずれも平易であることでバランスが取れている。

問 26 クラスで行う文化祭の出し物を決めるに当たり、条件に合うアイデアを聞き取る問題。四人の話者のうち一人は日本人話者と思われる。学校生活でしばしば目にする状況であり、示された条件も現実的なものであることで、受験者も英語を聞き取ることに集中しやすかったと思われる。

第 5 問 「ガラスの特徴と近年の技術革新」についての講義を聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用しながらノートテイクする技術が求められる。ただし、ワークシートの後半部分（問 28～31）については表である必然性が低いように感じられる。日々の授業でもワークシートを利用したり、話を聞いてメモをとる活動は頻繁に行われているからこそ、ワークシートのリアリティも追及する余地があると考えられる。一方で、問い及び図表を読む時間は十分であり、聞き取る内容とワークシートの配列も一致しているので、受験者もストレスなく聴解に集中することができたと思われる。

問 27 ワークシート前半の空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートにしっかりと目を通しておくことで①や③の錯乱肢を回避することができる。

問 28～31 ワークシート後半の空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。特に問 30、問 31 は講義の内容を端的にパラフレーズしたものとなっており、高い思考力が求められる良問である。

問 32 講義の内容と一致する選択肢を選ぶ問題。標準的な内容理解問題である。

問 33 講義の内容と与えられた図から読み取れる情報から言えることを選ぶ問題。いずれの選択肢も前半部分が講義内容について、後半部分が図の説明という構成になっている。短い時間の中で正確な図の読み取りが必要となるが、やはり選択肢の後半部分はリスニングとは関係なく解答できてしまう点が問題である。また、図で示されている国の順番が選択肢では逆になっていることで不要な難しさを感じられる問題である。さらに、正解となる選択肢の英文の論理性も改善の余地があるように感じる。

第 6 問 A は「旅行中の移動手段について」の二人の会話を聞き、設問に合致する最も適切な選択

肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは「運動を始めることについて」に関する四人の学生の会話を聞き取り、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。昨年同様、それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見の根拠となる図表を判断する力が問われた。話者の声や英語にそれぞれ特徴があり、それぞれの名前も頻繁に登場するので、誰の発言なのか分かりやすく、配慮が感じられた。また、話者の一人（Haruki）は日本人であるように聞こえる。

問 34 話者の一人（Michelle）が会話中に示した意見を選ぶ問題。

問 35 二人の話者が決めたことを選ぶ問題。意見がはっきりと述べられるため、難易度は高くなかったと思われる。

問 36 最終的にウォーキングをすることに決めた人を選択肢から選ぶ問題。

問 37 Linda の考えの根拠となる図表を選択肢から選ぶ問題。

3 総評・まとめ

ここまで2024年度（令和6年度）共通テスト「英語（リスニング）」（本試験）について検討してきた。ある技能に特化するのではなく、統合的な言語活動の下に生まれる場面が共通テストで取り上げられることによる教育現場への正の波及効果については引き続き期待できる部分である。扱われているトピックの選定や1つ1つの発話や対話の場面設定などにかかなりの創意工夫と改善が感じられ、作問に当たってのご苦労が拝察される場所である。第5問で指摘したように、各問題のリアリティを更に追及することが、共通テストの更なる質的向上にもつながると考える。そして、ひいては共通テストが単なる大学入試のためのものだけではなく、実質的な英語力を問う試験としても評価されていくのではないかと考える。

4 今後の共通テストへの要望

今年度も昨年度に続き平均点の上昇が見られたが、次年度以降も今年度並みの平均点を目指し、試験としての安定性を高めることを望みたい。まとめでも述べたが、共通テストの設問のリアリティが上がることで、高等学校の授業内容への影響や受験者の英語力の向上へとつながるようなサイクルが生み出されると理想的なのではないか。思考力や判断力を問うものとして、話者がとるであろう行動を予測したり、発言の意図を汲み取ったりする行為は日常生活でも頻繁に行っており、英語運用力を高めるものでもあると考えるので引き続き取り扱ってほしい。

英語の知識や表現力を問うような出題についてももちろん引き続き検討していただきたいところであるが、それに当たってはスピーキングテストとの融合の可能性をあらゆる方向から探っていただくことも要望しておきたい。実際に学校現場では一人一台端末が普及し、音声認識ソフトの性能の向上も著しいものがある。総じて近年のAI技術の発展は目覚ましく、長らくスピーキングテスト実施の課題とされてきた「技術」面の問題もまもなく解消されるのではないだろうか。大学入試センターでも検討を進めていただきたい。